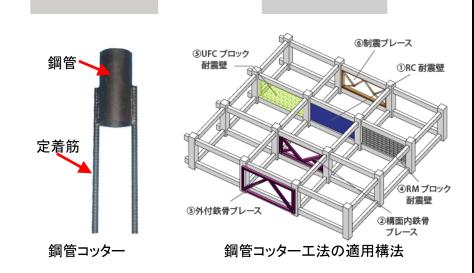
■工法概要 【耐震補強工事において、従来の耐震壁増設に使用されていた「あと施エアン カー」に替えて、既存躯体のかぶり部分に円筒状の溝を掘り「鋼管コッター」を 挿入して樹脂接着剤で固定することにより、既存柱・梁と補強部材の接合を 行う工法。 ■写真・イメージ・図面 あと施工アンカー工法 鋼管コッター工法 既存躯体側 既存躯体側 ハンマードリル 注入接着用樹脂 9

既存モルタル・

圏管コッター



鋼管コッター工法研究会HPより(2017年12月11日)

「■特徴・適用条件・注意事項 等

【労務】

1箇所当たりの耐力が大きいため、本数を大幅に減らすことができる。 【コスト】

本数を大幅に減らすことができるので、コスト削減が可能。

特徴

・施工能率が良く、工期の短縮が可能。

効果

既存躯体に仕上げモルタルが付着している場合でも、モルタルの健全性と強 度確認をすればモルタルを斫らずにそのまま施工できるため、工期の短縮が

メリット

30 埋込部

空気抜き穴

定着筋

- •あと施工アンカーと鋼管コッターの施工時間を比較すると、約1/5の短縮。 【環境】
- ・静穏性の高い専用のコアドリルにより既存躯体を削溝するので、低騒音、低 振動、少粉塵で施工することができる。

- ・RC造、またはSRC造の建築物の柱や梁の構面内及び構面外。
- 適用条件 ・既存躯体のコンクリート圧縮強度が13.5N/mm²以上の建築物。ただし、外付 け補強の場合は18N/mm²以上の建築物。
- 特許 特許3384992号(戸田建設株式会社)

メーカー等 |鋼管コッター工法研究会

備考

GBRC性能証明第03-04号(一般財団法人日本総合試験所) NETIS登録番号: KT-140122-A

■検索用分類

検討時期	部位•種別	着眼点	効果	職種
☑ Phase0(営業)	□ 仮設	□ 繰り返し作業	☑ Q	□ 鳶工
☑ Phase1(企画)	□ 基礎	✓ 工程数削減	C	□ 土工
✓ Phase2(基本設計)	✓ 躯体(RC)	□ 標準化・モジュール化	☑ D	✓ 鉄筋工
✓ Phase3(実施設計)	■ 躯体(S)	☑ 省人化	S	☑ 型枠工
☑ Phase4(施工準備)	□ 外装	□ IT化·高効率化	✓ E	□ 左官工
☐ Phase5(施工)	□ 内装	□ 工場製品化・PCa化		□ 鍛冶工
	□ 外構	□ ユニット化		□ 金属工
	□ 設備	機械化		□ 内装工
	□ IT化	☐ 多能工化·共業化		電工
•	☑ 特殊構工法	□ VE•設計変更		□ 配管工

埋込部

7d以上

モルタル撤去

による穿孔

補強躯体側